

# 青葉山麓研究所だより

第10号  
平成30年9月発行  
青葉山麓研究所

## 氷河期を生き残った青葉山の天然スギ

2016年と2017年に筑波大学の津村教授に依頼して現地調査と遺伝子解析を行った青葉山北面の天然スギの調査結果が、8月に同教授から発表されました。

今から約2万年前の最終氷河期の頃に、スギは当時温暖な屋久島、伊豆半島周辺、紀伊半島南端、四国南端、若狭湾周辺から隠岐島にかけての地域で生き残ったと考えられており、これらのスギは他の天然スギに比べ高い遺伝的多様性を持った、学術的に貴重なものです。

その生き残りの場所と考えられる青葉山の天然スギらしき個体195本から枝を採取して遺伝子解析をした結果、139本が最終氷河期を生き残ったとされる京都府の芦生スギや島根県の安蔵寺スギと近縁であることがわかり、青葉山の天然スギが氷河期を生き残った古代の貴重なスギであることが判明しました。残りの56本は静岡県内のスギに近いもので、経緯は不明ですが人工的に植栽されたものと考えられます。

近隣の人工林から天然林へ花粉が流入すると、次世代の天然スギの遺伝子に悪影響があります。青葉山の天然スギの遺伝的特性を維持するため、今回確認された天然スギのうち、標高400m以上にあるスギ天然林を保護区に設定するとともに、太い天然スギから挿し木などで苗木を作り、青葉山以外の場所で保全すること（域外保全）を、津村教授は提言しています。

また、今回の調査で西峰から内浦側に連なる尾根筋で、天然スギとブナの巨大な合体木が見つかりました。新たな観光資源としても注目されています。



西峰付近の天然スギ



調査中の津村教授



巨大なスギとブナの合体木